



# 未来へ語り継ぐ引き揚げの歴史

# ユネスコ世界記憶遺産申請へ

## 「再出発、のまち 舞鶴から」



▲黒沢文貴 東京女子大教授 (59歳、東京都)

引揚者の数は全国で630万人以上ともいわれており、親戚や知り合いの中に大陸から引揚者がおられる方も多いと思います。日本人にとって引き揚げの歴史は、実はとても身近なものであり、その大変な苦労の経験が今日の日本人の平和を願う思いに多大な影響を与えたと考えています。また、シベリア抑留

### 世界的な価値がある

舞鶴とは縁があり、「舞鶴市ユネスコ世界記憶遺産有識者会議」の委員としてこの事業に携わっています。私は、近代史が専門ですが、この会議ではさまざまな分野の専門の方と、膨大な資料をいろいろな角度から検証し、申請する資料の選択、申請書作成のための助言を行っています。市が所蔵する引き揚げに関する約1万2千点の資料は、いずれも歴史的に貴重な資料であると言えます。現在、その中からユネスコ世界記憶遺産への登録基準である唯一無二の希少性や真正性、国際的な影響などの条件を兼ね備えている約580点を厳選し、申請の準備を進めているところとです。

### 有識者会議での活動

舞鶴とユネスコ世界記憶遺産有識者会議の委員としてこの事業に携わっています。私は、近代史が専門ですが、この会議ではさまざまな分野の専門の方と、膨大な資料をいろいろな角度から検証し、申請する資料の選択、申請書作成のための助言を行っています。市が所蔵する引き揚げに関する約1万2千点の資料は、いずれも歴史的に貴重な資料であると言えます。現在、その中からユネスコ世界記憶遺産への登録基準である唯一無二の希少性や真正性、国際的な影響などの条件を兼ね備えている約580点を厳選し、申請の準備を進めているところとです。

### 未来へ語り継ぐ

よりよい未来をつくるには、過去の歴史を知り、そこから学ぶことが大切であると考えています。おとしから市内の小学6年生は全員、ふるさと学習として舞鶴引揚記念館に来館するなど、引き揚げの史実を学ぶようになりました。また、舞鶴引揚記念館を市の直営として、学芸員を配置し、資料のデジタル化や史実の継承事業など創造的な事業にも取り組んでいます。

### 誇るべき市民の歴史

舞鶴市民は、国内で唯一、13年間にわたり約66万人もの引揚者を迎えました。戦後、多くの日本人が海外に取り残され、シベリア抑留など想像を絶する体験の末に日本へ帰還し、ここ舞鶴から全国へ帰られた皆さんにとって、舞鶴は、まさに再出発の地と言えます。戦後、自分の生活もままならぬ大変な状況の中で、市民の温かい歓迎は多くの引揚者の皆さんの心に届き、今もなお引揚港舞鶴への思いを寄せられる方もおられます。

### 思いをひとつに

本市にとってユネスコ世界記憶遺産への登録は目標ではありますが、ゴールではありません。登録を目指す活動を契機として、風化しつつある引き揚げの史実を次世代に継承し、平和の尊さを広く国内外に発信していくものです。加えて、舞鶴への注目度も高まり、地域の活性化にもつながっていくものと考えています。

### まちの歴史でもある

13年もの間、多くの引揚者を温かく迎えた舞鶴。その「おもてなし」は引揚者を感じさせました。このことは、多くの資料が舞鶴に寄贈されていることや、今も、当時を思いおこし舞鶴を訪れる方がおられることから推察されます。そしてそれは、当時の舞鶴市民も、引き揚げの歴史において重要な役割を果たしたことを物語っています。このことを市民の皆さんには決して忘れないようにしていただきたい。



▲多々見市長

さらには、全国から寄贈された引き揚げに関する貴重な資料を「ユネスコ世界記憶遺産」への登録を目指して、準備を進めています。

## 応援ありがとうございます

「応援する会」の署名活動に約20,000人

「舞鶴引揚記念館資料のユネスコ世界記憶遺産登録を応援する会」では、市民の皆さんが中心となりユネスコへの登録に向け、今年7月から自治会を通じて署名活動に取り組まれています。

現在まで、約20,000人の署名が集まり、今後は、参加団体や事業所での取り組みやイベントなどでの呼びかけで、さらに署名活動を進めていかれます。署名用紙は舞鶴引揚記念館や市役所本庁、西支所、加佐分室にもあります。ご協力をお願いします。

◆応援する会…舞鶴自治連・区長連協議会、舞鶴市老人クラブ連合会、舞鶴ユネスコ協会、NPO法人ガバナンス舞鶴、NPO法人舞鶴・引揚語りの会が発起人となり、現在、舞鶴商工会議所、社会福祉協議会など32の団体・事業所が参加(9月20日現在)。賛同される団体などを募集中。

▶ユネスコ世界記憶遺産登録への署名に関するお問い合わせは、同事務局(担当:谷口 ☎090・2016・7947)へ。

- ### 有識者会議の委員
- ◆会長 黒沢文貴 東京女子大 教授
  - ◆副会長 栗原祐司 東京国立博物館 総務部長
  - ◆委員 園田直子 国立民族学博物館 教授
  - ◆委員 クレイグ・スミス 京都外国語大 教授
  - ◆委員 砂原由明 舞鶴市産業振興部長



資料の中には検閲で没収されるはずのもの、それをすり抜けて残っている大変貴重なものもあります。そして、いつ帰ってくるのかという、帰りを待ちわびる家族の手記、いつになつたら帰れるのだろうかという抑留者の思いをつづった日記や交わされる手紙など、心に響く資料の数々。これらの資料には、学術的な希少価値だけではなく、世界の人々にも共感してもらえらる普遍的な物語性があります。歴史的一幕を私たちに追体験をさせてくれる力を持っており、平和への思いを後世につなげる大切な鍵となります。ユネスコ世界記憶遺産への登録に十分に値するものだと確信しています。

われわれ有識者会議もお役に立てるよう頑張りますので、共にユネスコ世界記憶遺産への登録を目指そうではありませんか。